

# メッセージ

富川裕美子 プロフィール

エステティック美容界に入り、様々なエステ分野、化粧品分野、メディカル分野についての学びを深めるために1982年 渡仏。エステティック発祥の地フランスで、フランスエステの全般を熟知。その後アメリカ、ベルギー、ロシアなどへ短期留学。各国の美の知識人や皮膚科医との交流を深めつつ美学のノウハウを学び、世界各国の国際ライセンスを数多く取得。その後、日本、海外において、エステティック全般におけるテクニックや化粧品、心理学を含む諸分野の理論等、エステティシヤンの指導育成を実践し、美容医学の指導者として幅広く活躍中。現在は、外面美学の時代は終わり、美の究極とする精神性と美を統合し、女性が真に輝き、内なる女性性に気付いて、自己の魅力を最大限に引き出していくことをテーマとして、世界に通用する本物のビューティセラピスト育成に力を注ぐ。「美とスピリチュアルの統合」をテーマに究極の癒しを確認。多くの人々と共に喜びと感動を共有しながら、美しく生きる女性たちを応援している。

【国際ライセンス】

- ◆1981年 日本 シデスコインターナショナル取得
- ◆1982年 フランス マドレーヌ・マガン女史より  
コスメティック&テクニックライセンス取得
- ◆1992年 アメリカ 瘦身技術ライセンス取得
- ◆1995年 ベルギー インファ：海外における美容ライセンス取得
- ◆1998年 ロシア ハバロフスク国立医科大学 理学療法士ライセンス取得
- ◆2000年 日本 カウンセリング・実践カウンセラー資格取得  
他多数

聞き手 美容家 富川裕美子さん (ゴッテス代表)

です。マツサージやお化粧品でお手入れする外面美容と食やデトックスを意識した内面美容、そしてストレスを解放し、明るく豊かに生きる精神美容。これらすべてが完結してはじめて健康でいられるのだと思っています。今、お話をうかがって加藤さんは歌うことが精神美容につながっているのだと感じました。

**加藤**…だから、3日休むと体調が悪くなるのね(笑)。でも、本当にそうだと思う。私は、嬉しいなと感じることをしている時は、まったく疲れを感じないのね。だから、コンサートを終えたその足で、農園に駆け付け農作業したり、料理したり。特に料理は好きですね。いい素材を集めてみんなにおいしいものを食べてもらうっていうのは音楽と似ているでしょ？いい音楽にたどり着きたいとみんなに向かっていく、アンサンブルっていう関係はまるでお料理みたい。お正月は毎年、家族分のお節は私が作ります。周囲からは、少しはのんびりしたらと言われますが、やりたいと思ったから行動する。自分の感情に正直に生きることが、心身の健康につながっているのかもしれないね。

**富川**…先ほど農園のお話が出ましたが、加藤さんはオーナ

**富川**…わかります！人って、気持ちいいと感じた瞬間、細胞が輝くんですよ。加藤…恋をするって女性がキレイになるのも、細胞の輝きが増えだすということなんです。溢れだすということなんです。私ね、歌うときって歌詞をみないの。歌詞に登場する人物になりきって、言葉をお話するように歌うことで、主人公の悲しみや喜びを共有するのです。私の歌って「生きましょう」って言う歌が多いんです。どの歌もすごく強い。だから、どんな瞬間にも生きるということの素晴らしさを感じて届けようと思っています。



愛を耕す者たちよー  
鴨川自然王国のこと

# 青空に、こころの歌を響かせて

加藤登紀子 プロフィール

1965年東京大学在学中、第2回日本アマチュアシャンソンコンクールに優勝し歌手デビュー。1966年「赤い風船」でレコード大賞新人賞、1969年「ひとり寝の子守唄」、1971年「知床旅情」でレコード大賞歌唱賞を受賞。以後、70枚以上のアルバムと多くのヒット曲を世に送り出してきた。NHK紅白歌合戦に2回出場(71年、89年)。年間数十回におよぶ国内コンサートのみならず、1988年、1990年のカーネギーホールをはじめ、世界各地でもコンサートを行っている。1992年には、芸術文化活動における功績に対して、フランス政府からシュバリ工勲章を授けられた。近年は、野外フェスにも意欲的に挑戦し、FUJI ROCK FESTIVAL や ap bank fes に出演。世代やジャンルを超えた活動で注目を浴びている。また、国内地域とのつながりを大切にしているため各方面の大使に任命されている。滋賀ふるさと大使、佐渡トキ環境親善大使、島根有機農業大使、能登・七尾ふるさと大使など。

2011年東日本大震災後、度々被災地を訪れ避難所でもLiveを行っている。9月にアルバム「命結・ぬちゆい」をリリース。このアルバムの印税を基に「ぬちゆい基金」を設立。福島の子供達の健康を守るための活動を支援した。地球環境問題にも積極的に取り組み、1997年、WWF ジャパン(世界自然保護基金ジャパン) 評議員(現在、WWF ジャパン顧問及びWWF パンダ大使)に就任したの続き、2000年10月にはUNEP(国連環境計画)親善大使に任命された。近年は、アジアやオセアニア各地を精力的に訪れ、自らの目で見えた自然環境の現状を広く伝えるほか、音楽を通じて交流を重ねている。(2011年3月にUNEP親善大使を退任)2008年4月、国連総会議場(ニューヨーク)にてUNEP親善大使としての活動報告とLIVEを行う。国内では、千葉県鴨川市の「鴨川自然王国」を拠点として、若い世代とともに循環型社会の実現に向けて活動を続けている。

近著に自叙伝「青い月のバラード」(2003年単行本・2007文庫本、小学館)、2005年夫、藤本敏夫との獄中往復書簡をまとめた「絆」(藤原書店)、2011年「スマイル・レボリューション(白水社) 3.11から持続可能な地域社会へ」、2012年対談集「命を結ぶ」(中央法規出版)、2013年「君が生まれたあの日 未来への手紙〜」(廣済堂出版)がある。全国書店にて発売中。



スペシャルゲスト 加藤登紀子さん (歌手)

**富川**…デビュー50周年おめでとうございます。昨年末、ほろ酔いコンサートを拝見させていただきましたが、子供の頃に見ていた加藤さんのイメージそのままで驚きました。歌手って、体力的に相当ハードなお仕事だと思っのですが、やはり健康には気を使っているのでしょうか。加藤…それほど、特別なことはしていません。強いってあれば週1回のストレッチと水シャワーを浴びる、あとは時間がある時はサウナ。かれこれ20年は続けています。そうそう、スタッフからはこんなこと言われていますね。「お登紀を殺すには刃物はいらぬ。3日休みを与えればいい」なんてね(笑)。どうも、私は動き回っていませんと死んでしまう回遊魚みたいですね。

**富川**…では、加藤さんにとって歌うことは仕事でもあり、健康法でもあるのですか。

**加藤**…歌うことが私の生命の源になっているのかもしれない。でも、これは私だけではないんですよ。うちのメンバーの一人は、ひどい花粉症

元気の秘訣は、人と会うこと、歌うこと

**富川**…すごく良くわかります。私は、長年、美容のお仕事をしているのですが、真の美しさって外面だけのお手入れでは、手に入れないと痛感しています。心と身体は表裏一体。見た目の美しさと健康、精神性はすべて比例してるの

内側から細胞が輝く、それが本当の健康美

**富川**…で、終わるとまたクシヤミが？

**加藤**…そうなの。面白いでしょ。音楽にはそういう力があるのよ。何人もの人たちが集まって、一つのを創り上げるエネルギーが、そうさせるのかもしれないわね。

**富川**…だから、聞く我々も音楽によって癒されたり、元気が湧いて来たりするんですね。

**加藤**…その通り。すべての人の持つ集中力が一つになった瞬間のエネルギーたるや。何ていったら良いんだらう？人間の細胞まで影響を及ぼすほどの力がある。そんな気がしてします。



# メッセージ 青空に、こころの歌を響かせて



加藤登紀子コンサート  
ピアフ物語

Bunkamura オーチャードホール  
追加公演決定!

7.3(日) 開場12:15 開演13:00  
7.2(土) 開場16:15 開演17:00 ◀残席わずか  
S席 ¥7,000 A席 ¥5,000

加藤登紀子ピアフ物語コンサートツアースケジュール  
6/19(日) 山形県文化ホール tel: 023-999-1166  
6/25(土) 東京芸術劇場シアター・ドラマシティ tel: 03-6277-2888  
7/2(土) 群馬音楽センター tel: 027-323-4527

加藤登紀子ピアフ物語コンサートツアー予定  
6/19(日) 山形県文化ホール・ドラマシティ  
6/25(土) 群馬音楽センター  
7/2(土) Bunkamura オーチャードホール  
7/3(日) Bunkamura オーチャードホール  
お問い合わせ先 トキコ・プランニング  
☎ 03-3352-3875

川を務めていらつしやる「鴨川自然王国」のお話をお聞かせいただけますか。

加藤…鴨川自然王国のベースとなる農業は75年に夫の藤本が始めたのですが、当時は農園というのではなく、農地を一部借りてのささやかなスタートでした。

富川…きっかけは？

加藤…当時、国は、有機農業はやめようという政策に踏み出していて有機農家への風当たりの強い時期でした。そんな中、彼はビジネスとは違う視点で、自身が理想とする農業をやりたいと。お金を得るのが目的ではなく、鶏の飼育や農産物の加工、さらにトラスト運動などを組み合わせ、会員を作り、食べて楽しむ農業をやるうと思ったのです。81年に、鴨川に良きご縁が出来て農業が中心のコミュニティが完成したのです。夫亡き後は私が引き継いだのですが、農業をやりたいという若者が多くやってきました。夫を亡くしてポツカリ穴の空いていた私の代わりに、土を耕したり、野菜の栽培、家畜の飼育をしたりしてくれて。その若者の中の一人が娘婿として現在の「鴨川自然王国」を盛り立ててくれています。

富川…生きることは、食すること他にありませんからね。大自然の恵みを受けた生命力の高い、化学薬品などで汚されていない食物を食べることで、人間の五感は磨かれていくと思うのです。そのことに気づいた私たちは、近年になってオーガニックや自然農法に注目するようになったのですが、加藤さんご夫妻は40年近く前から、活動なさっていたのです。

加藤…そうですね。生きることはとどのつまり土を耕すことです。農業は、農産物を単に栽培するのではなく命を耕すもの。私の歌に「愛を耕

すものたちよ」というのがありますが、これは人はみんな心に土を持っている。そこで命を育て、思い出を重ね、涙と喜びの歳月を耕しています。その心の土に大切な愛を耕しましょうという祈りの歌です。

富川…不安な時代、悩んでいる若い人への応援歌であるとともに、私たちの年代にも大切なことを思い出させてくれる歌だと思います。どうぞ、これからも音楽を通して私たちに生きる力を与え続けてください。今日はどうもありがとうございました。

